

SWCCグループ

2021年3月期
決算補足説明資料



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

May 13, 2021

<https://www.swcc.co.jp>



2021/3期（2020年度）決算総括

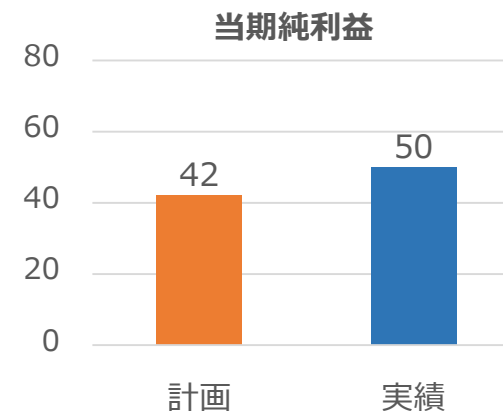
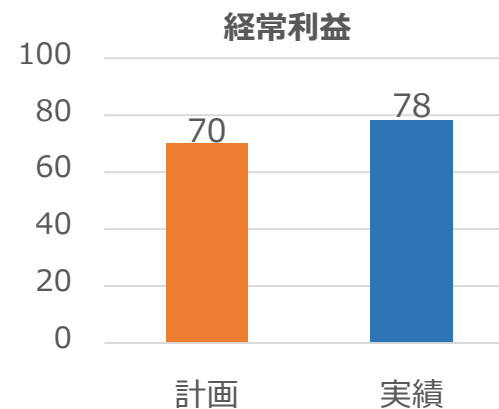
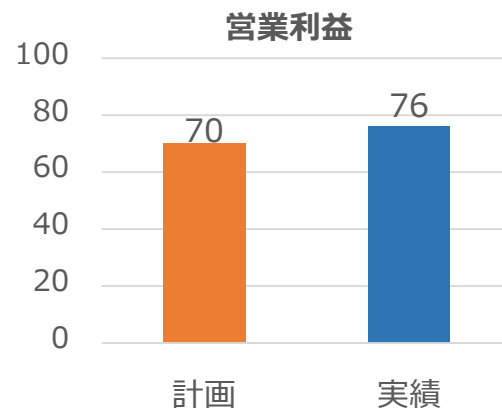
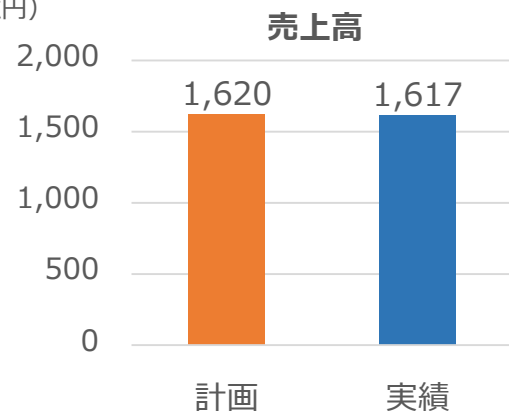
業績：コロナ禍による影響はあったものの、利益面での計画は達成

- ・ **エネルギー・インフラ事業**：電力インフラ向け需要は当初の想定どおりに推移。
建設関連向け需要も緩やかに回復しつつ推移した。
- ・ **通信・産業用デバイス事業**：5G関連等の通信ケーブル需要は持ち直した。
産業用デバイスは中国を中心に回復が見られた。
- ・ **電装・コンポーネンツ事業**：重電向けの需要低迷が継続したことから減収となったが、
利益面では自動車向けの需要が回復し、増益となった。

計画達成状況（売上高/営業利益/経常利益/当期純利益）

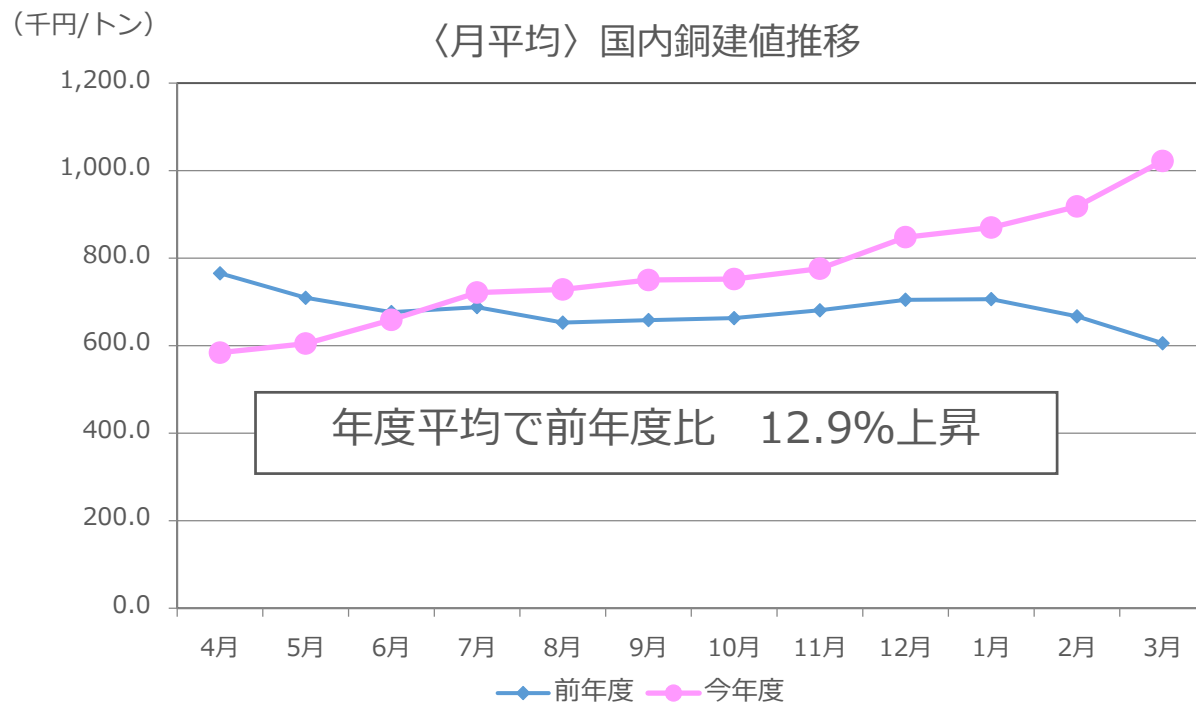
※対2月3日発表計画

（単位：億円）

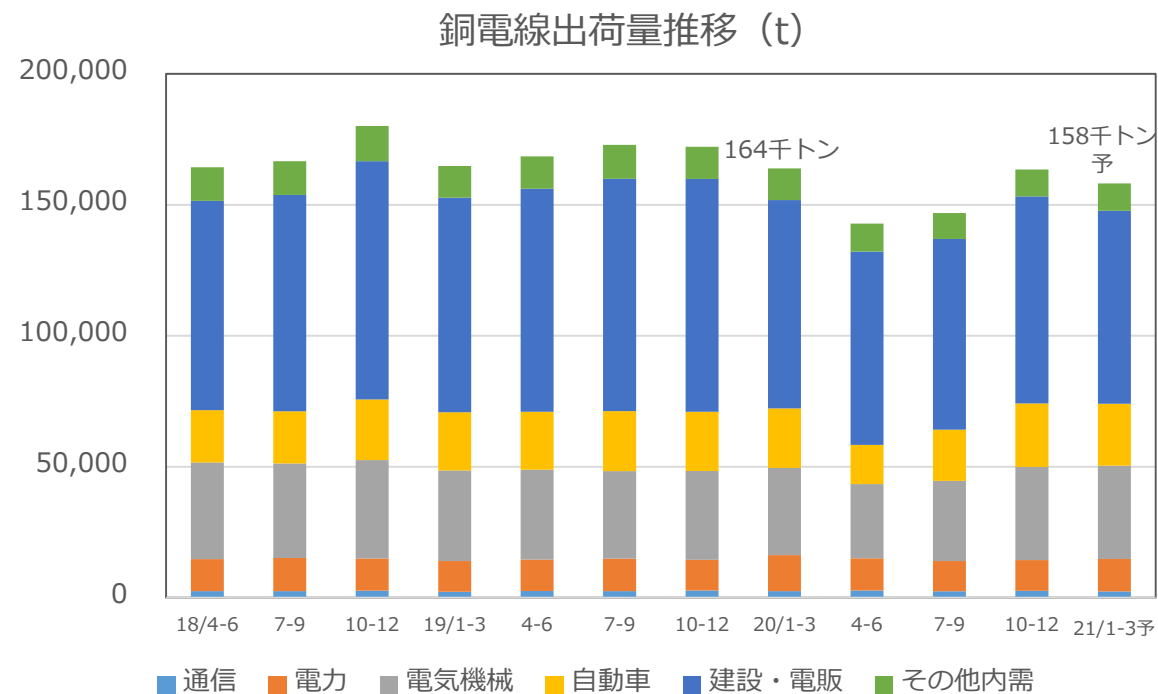


国内銅建値／銅電線出荷量の推移

- 国内銅価格（円ベース）は、中国の景気回復もあり上昇傾向が継続、年度平均で前年度比12.9%の上昇。
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に大きく減少。（前年度比△9.8%）



出所：(社) 日本電線工業会データより



出所：(社) 日本電線工業会データより

2021/3期：連結損益計算書

- 売上高は前年度比△5.5%、営業利益は△11.8%。
1Qはコロナ禍の影響により落ち込んだものの、2Q以降回復に転じた。
- 構造改革の効果もあり、通期で2018年度を超える利益レベルを確保。

(単位：億円)

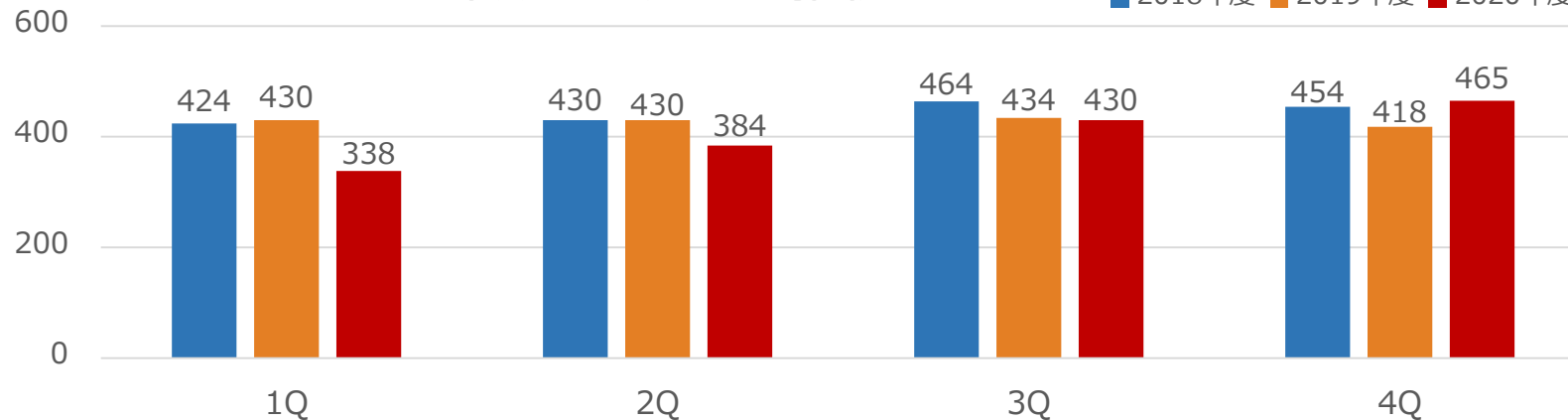
	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	構成 %	前年度比 %
売上高	1,772	1,711	1,617	—	△5.5%
売上総利益	217	237	218	13.5%	△8.3%
営業利益	66	86	76	4.7%	△11.8%
経常利益	56	79	78	4.8%	△1.3%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	46	55	50	3.1%	△9.1%
配当金/配当性向	7円 5%	15円 8%	20円 12%	+ 5円	—

四半期業績推移（過去3期比較）

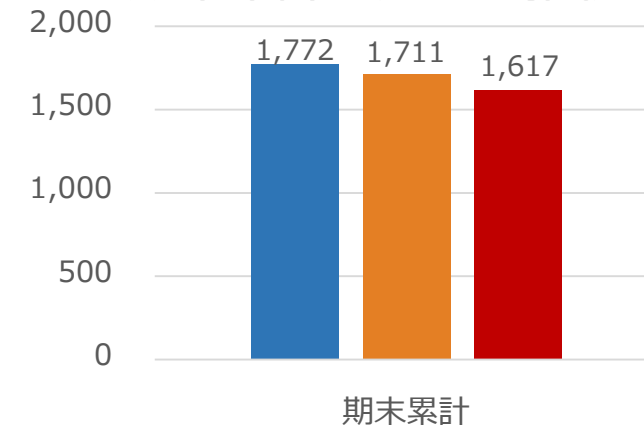
(単位：億円)

四半期毎の売上高推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



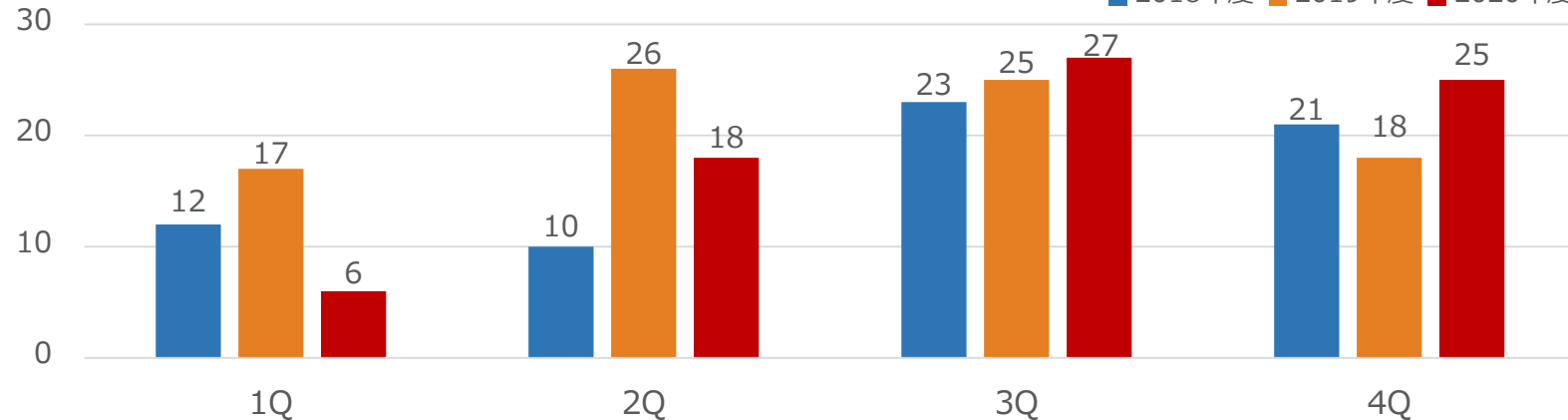
期末累計の売上高推移



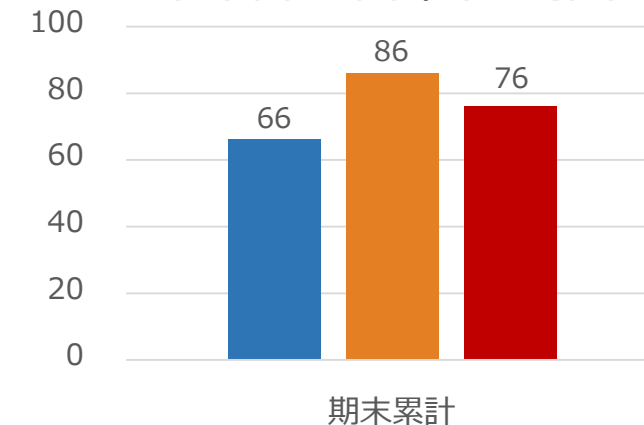
(単位：億円)

四半期毎の営業利益推移

■ 2018年度 ■ 2019年度 ■ 2020年度



期末累計の営業利益推移



セグメント情報(3カ年推移)

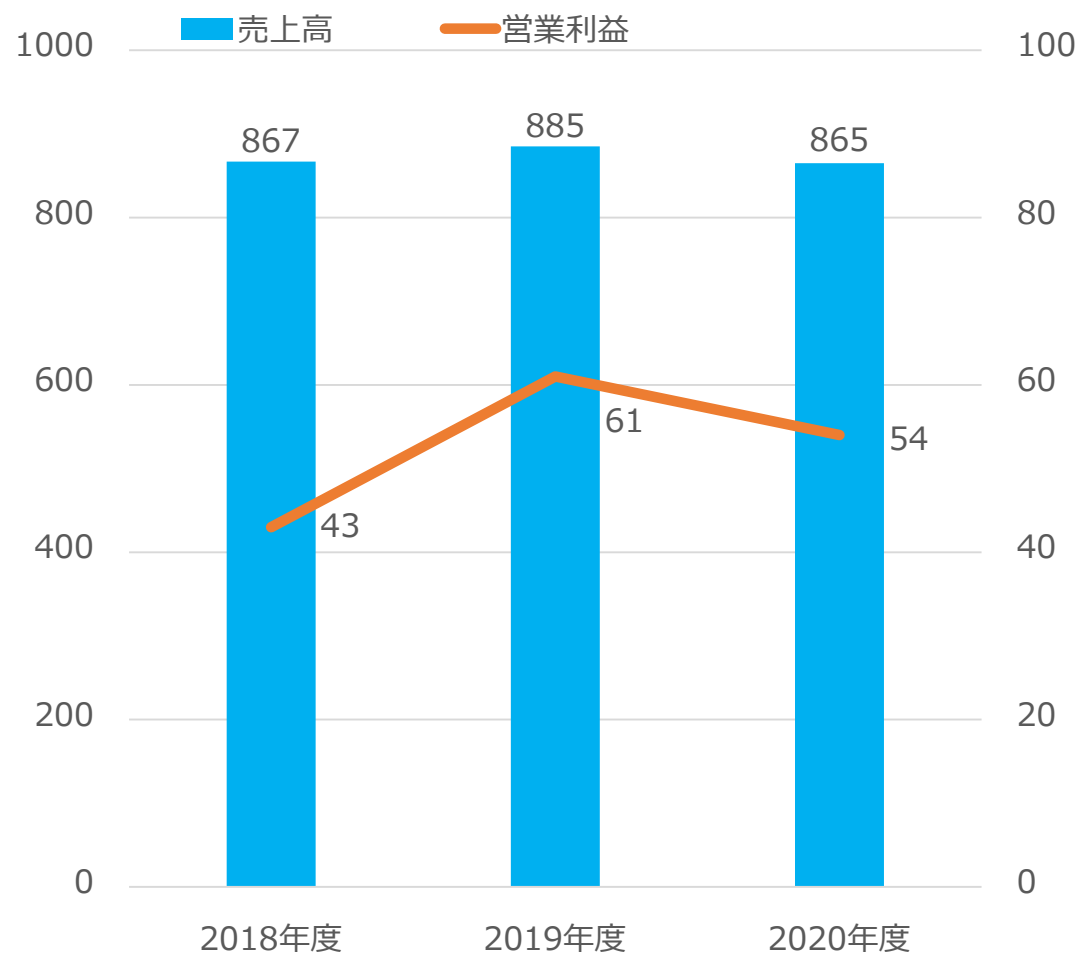
- ・ 2Qから回復基調となり、2018年度を超える利益レベルを確保。

(単位：億円)	2018年度 実績		2019年度 実績		2020年度 実績	
	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)	売上高	営業利益 (利益率%)
エネルギー ・インフラ	867	43 (5.0%)	885	61 (6.9%)	865	54 (6.3%)
通信・産業用 デバイス	327	18 (5.5%)	305	25 (8.2%)	270	18 (6.9%)
電装・ コンポーネンツ	523	8 (1.6%)	471	6 (1.2%)	431	7 (1.7%)
その他 (内新規事業)	55 (36)	△3 (1)	50 (35)	△6 (0)	52 (38)	△4 (1)
合 計	1,772	66 (3.8%)	1,711	86 (5.0%)	1,617	76 (4.7%)

エネルギー・インフラ事業 実績

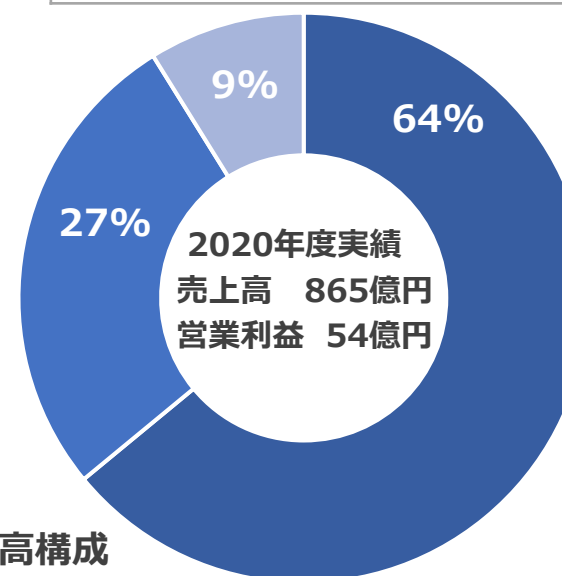


(単位：億円)



実績

◆建設関連 汎用電線	2Q以降、建設工事案件の需要が回復基調も前年同期に至らず。
◆免震・その他 免震装置、制振・防振	
◆電力インフラ 電力ケーブル、工事、 電力機器部品(SICONEX®)	期初に想定したとおりに推移した。

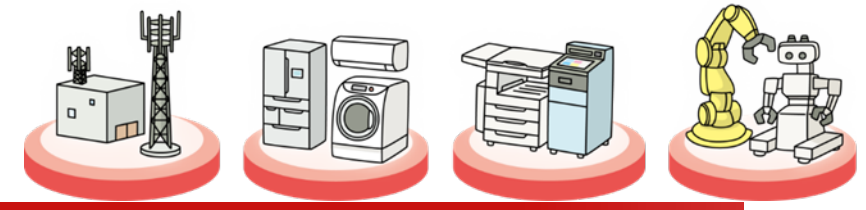


2020年度実績
売上高 865億円
営業利益 54億円

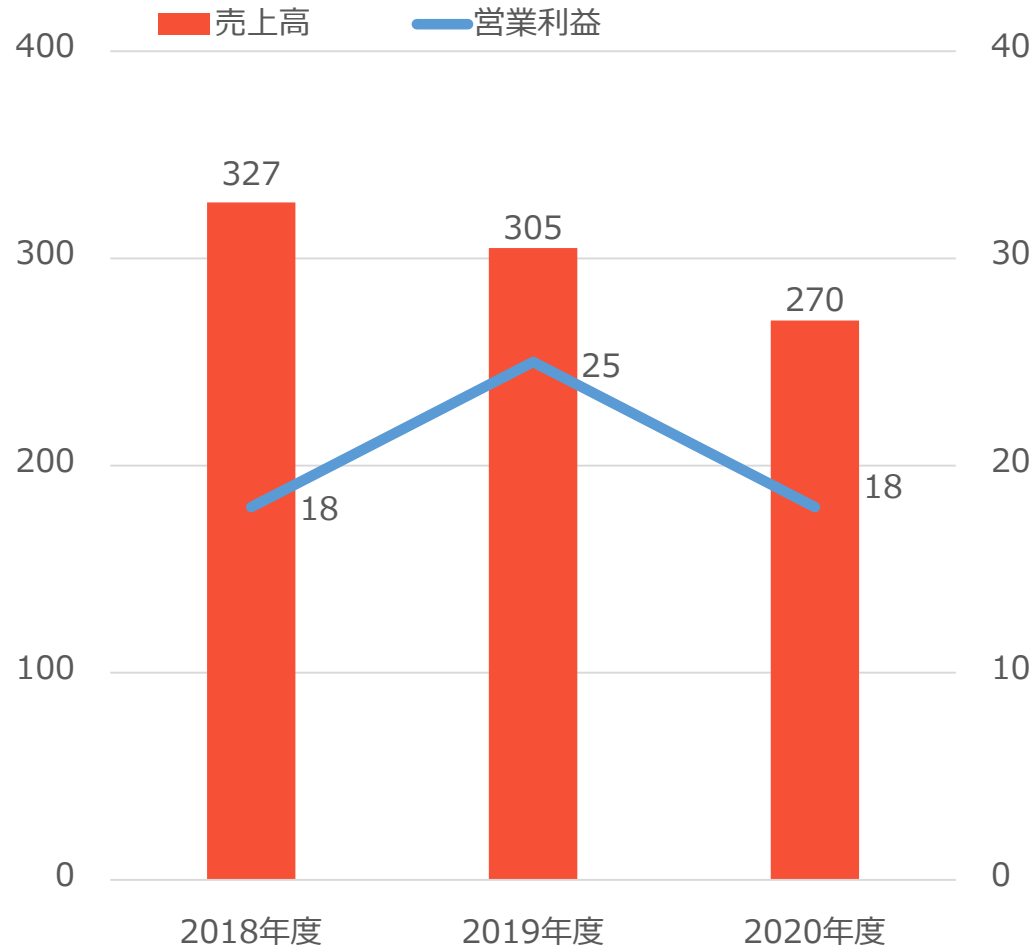
セグメント別
営業利益率：6.3%
ROIC：7.2%
設備投資額：14億円

※セグメント別ROICは社内管理用の参考値です

通信・産業用デバイス事業 実績

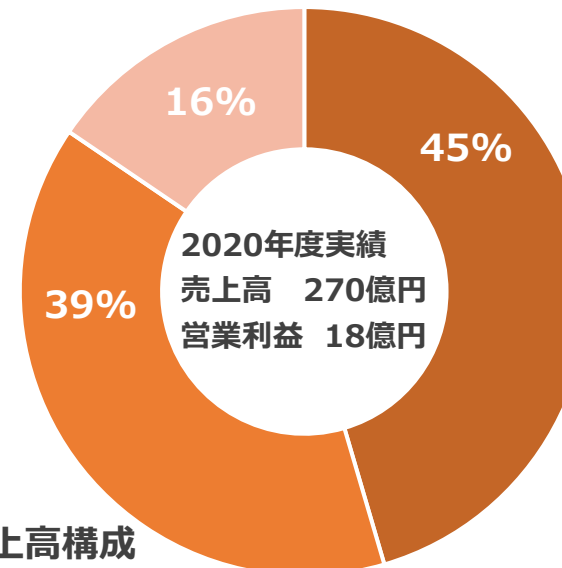


(単位：億円)



実績

◆通信ケーブル(建設) メタルケーブル、光ケーブル	5Gサービス向け等の通信インフラ増強に伴う需要があったものの、前年度の需要水準には至らず。
◆通信ケーブル(通信インフラ) LANケーブル、光ケーブル	
◆ワイヤハーネス (家電・産業機器 他)	サプライチェーンの混乱は収束し、中国を中心に需要が回復したものの、前年度の需要水準には至らず。
◆精密デバイス (複写機 他)	



売上高構成

■ 通信ケーブル ■ ワイヤハーネス ■ 精密デバイス

当セグメント内の
海外売上比率(2020年度)

32.7%

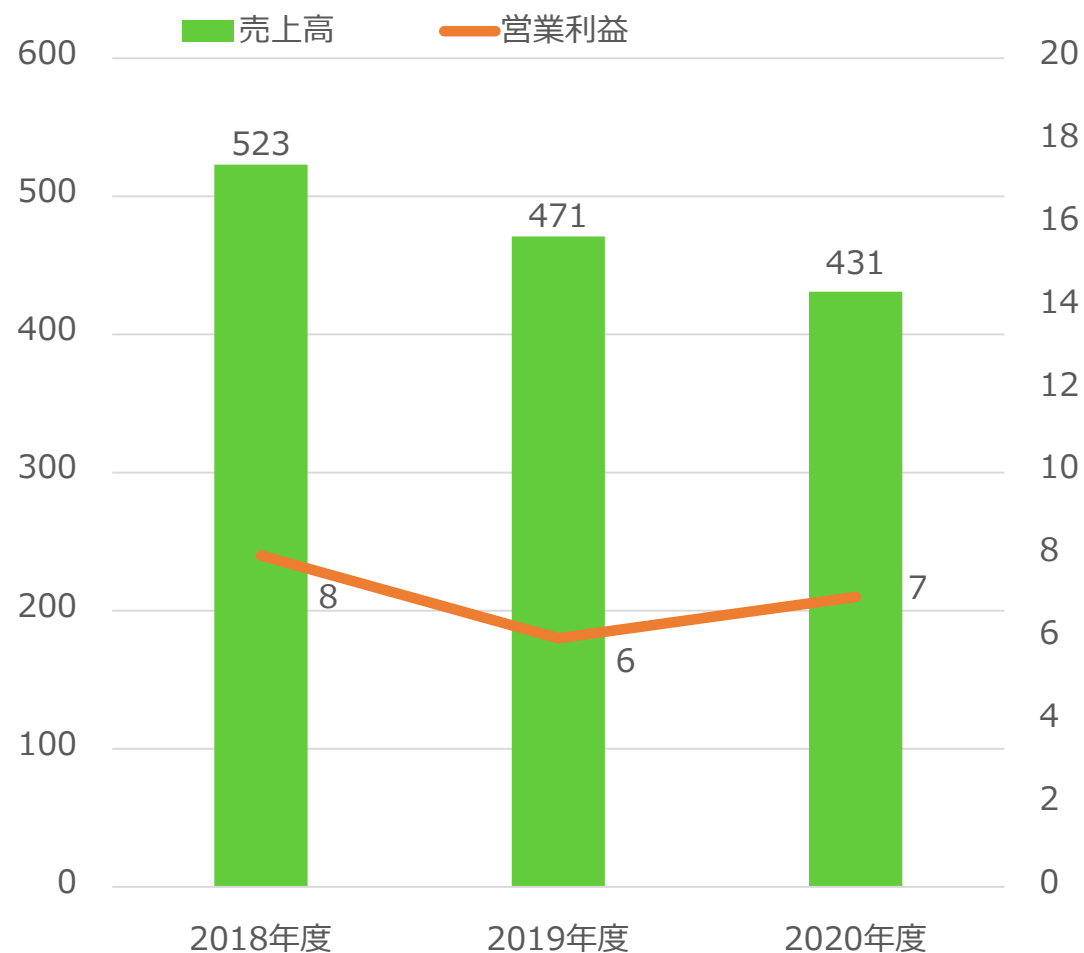
セグメント別
営業利益率：6.9%
ROIC：6.1%
設備投資額：9億円

※セグメント別ROICは社内管理用の参考値です

電装・コンポーネンツ事業 実績



(単位：億円)



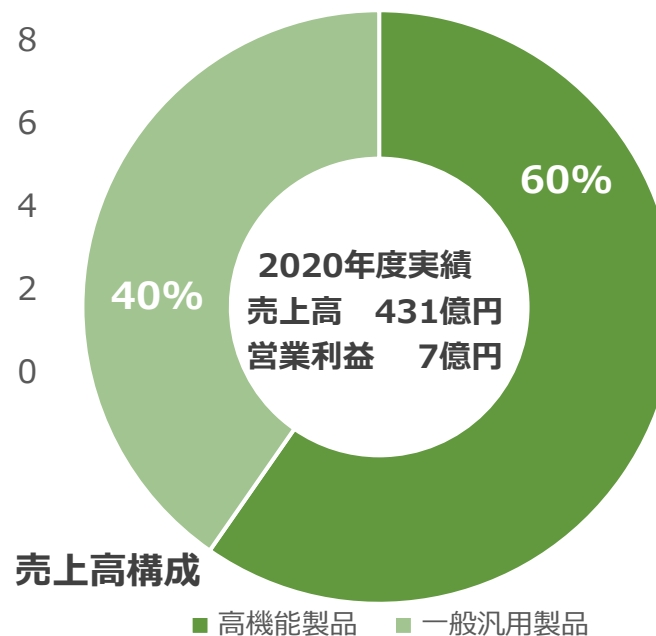
実績

◆ 高機能製品(自動車、電子機器 他)
無酸素銅MiDIP®、
銅合金、高機能巻線

3Q以降、自動車向け高機能
製品の需要は好調。

◆ 一般汎用製品(電気機械 他)
汎用巻線

重電向け等の汎用巻線の
需要低迷が継続。



セグメント別
営業利益率：1.7%
ROIC：4.9%
設備投資額：10億円

※セグメント別ROICは社内管理用の参考値です

2021/3期：連結貸借対照表・その他KPI

(単位：億円)

	19/3/31	20/3/31	21/3/31
流動資産	741	717	753
固定資産	500	508	542
流動負債	698	638	629
固定負債	188	187	184
資本金	242	242	242
資本剰余金	55	57	57
利益剰余金	10	62	106
総資産	1,242	1,225	1,295
有利子負債	467	423	377
DEレシオ	134%	107%	79%
自己資本比率	28.1%	32.3%	36.7%
	2018年度	2019年度	2020年度
ROIC	5.6%	7.3%	6.3%
ROE	13.5%	14.7%	11.4%

中期経営計画 数値目標 (KPI)

(単位：億円)	2020年度 実績	2021年度計画 (収益認識基準適用前)	2021年度計画 (収益認識基準適用後)	2022年度中期経営計画 (収益認識基準適用前)	VISION2026 (収益認識基準適用前)
売上高	1,617	2,000	1,800	2,000	2,100
営業利益	76	86	86	100	150
経常利益	78	83	83	95	150
親会社株主に帰属する 当期純利益	50	68	68	66	100
営業利益率	4.7%	4.3%	4.8%	5%以上	7%以上
配当/配当性向	20円 (12%)	40円 (18%)	40円 (18%)	50円以上 (約20%)	120円以上 (約35%)
有利子負債	377	390	390	380以下	300以下
DEレシオ	79%	73%	73%	70%以下	40%以下
純資産	482	543	543	550以上	800以上
自己資本比率	36.7%	38.4%	38.4%	38%以上	50%以上
ROE	11.4%	13.5%	13.5%	10%以上	10%以上
ROIC	6.3%	6.7%	6.7%	7%以上	9%以上

※「収益認識に関する会計基準」適用により、当該基準適用後の当社グループの2022年3月期連結業績予想につきましては、
「2021年度計画（収益認識基準適用後）」に記載のとおりです
※DEレシオは自己資本で算出しております

2022/3期：通期業績計画

- 2021年度業績はコロナ禍の影響が継続する懸念がありつつも、環境配慮型製品に関する需要等を取り込み、増収増益の計画。

(単位：億円)	2020年度 実績	構成 %	2021年度 計画	構成 %	増減額	増減率
売上高	1,617	—	1,800	—	+183	+11.3%
売上総利益	218	13.5%	—	—	—	—
営業利益	76	4.7%	86	4.8%	+10	+13.3%
経常利益	78	4.8%	83	4.6%	+5	+6.9%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	50	3.1%	68	3.8%	+18	+36.9%
配当金/配当性向	20円	12%	40円	18%	+20円	—



Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
経営戦略企画部 戦略課
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

<https://www.swcc.co.jp>



本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。